

ASEAN 大使通信

第 6 回 ASEAN 主導の枠組みをどう生かすか

2023 年（令和 5 年）5 月 30 日



第 2 回東アジア首脳会議大使級会合・リトリート（2023 年 5 月 23 日）

皆さん、5 月はどう過ごされましたか？ASEAN では、5 月 10 日～11 日に観光都市のラブアンバジョで ASEAN 首脳会議が開催されました。今回は ASEAN のみ参加の会議でしたが、本年 12 月 16 日～18 日に東京で日 ASEAN 友好協力 50 周年の特別首脳会議を開催することが決定・発表されました（[議長声明パラ 113](#)）。

この年末の特別首脳会議に向けて、ジャカルタでは要人來訪、日 ASEAN50 周年セミナー、協力案件形成のための ASEAN 事務局との協議などが相次ぎました。また、バンドンでは第 2 回東アジア首脳会議（EAS）大使級会合（EAMJ）・リトリートが開催され、ASEAN が主導するパートナーシップの枠組みがインド太平洋地域の平和と安定に大きな役割を果たしていることを実感しました。

今回の大使通信では、一連の行事について紹介しながら、特に ASEAN 主導の枠組みをどう生かしていくべきか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



カオ・キムホン ASEAN 事務総長と
萩生田自民党政調会長、赤澤政調会長代理の会談
(2023 年 5 月 2 日、ASEAN 事務局提供)

●萩生田自民党政調会長のジャカルタ訪問

5 月 1 日～2 日、[萩生田光一自民党政調会長と赤澤亮正政調会長代理がジャカルタを訪問](#)し、インドネシアと ASEAN の主要関係者と会談しました。今回の訪問は、日 ASEAN 友好協力 50 周年の節目に東南アジアとの戦略的パートナーシップを強化する一環として行われたものです。

カオ・キムホン ASEAN 事務総長との会談では、本年 3 月に岸田総理が「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック (AOIP)」主流化に向けて日 ASEAN 統合基金 (JAIF) に 1 億ドルの追加拠出を表明したことを紹介し、経済関係や人的交流の促進など日 ASEAN 関係を更に強化するための意見交換を行いました。

また、西村英俊東アジア・ASEAN 経済研究センター (ERIA) 事務総長との会談では、本年夏に ERIA 内に開設予定のデジタルイノベーション持続可能経済センターの取組が取り上げられ、同センター設置予定のフロアも視察しました。

萩生田政調会長は、前職の経産大臣時代を含め長年にわたり ASEAN との関係強化に尽力しており、50 周年の成功に向けての強い熱意を感じました。



CSIS インドネシア・ERIA 共催セミナー（2023 年 5 月 15 日）

●CSIS インドネシア・ERIA 共催セミナー

5 月 15 日には、ジャカルタで[インドネシア戦略国際問題研究所（CSIS）・ERIA 共催セミナー](#)がハイブリッド形式で開催されました。日 ASEAN 友好協力 50 周年を記念して、日 ASEAN 経済共創ビジョンを主要テーマに据え、地政学的課題からエネルギー移行、デジタル化まで幅広く取り上げたものです。

開会セッションでは、ホセ・リザル CSIS 所長と[私の挨拶](#)に続き、アリフィン・タスリフ・エネルギー鉱物資源大臣の基調講演が行われました。その後のセッションでは、CSIS と ERIA をはじめ、日本やタイ、シンガポール、ベトナム、マレーシアなど各地から官民のパネリストが参加し、日本と ASEAN が今後取り組むべき諸課題と協力の方向性について議論を深めることができました。

私も終日出席し、会場では 50 名以上が参加してどのセッションでも積極的に質問しているのを見て、日 ASEAN 協力への高い関心に強い印象を受けました。当日の様子はアーカイブ動画（[開会式・セッション 1（地政学的課題）](#)、[セッション 2（エネルギー移行）](#)、[セッション 3（デジタル化）](#)）を視聴でき、プレゼン資料も[ウェブサイト](#)からダウンロードできます。



日 ASEAN 医薬品リスク管理計画研修シンポジウム（2023 年 5 月 24 日）

●日 ASEAN 協力の実施と案件形成

5 月 24 日には、ジャカルタ市内ホテルで日 ASEAN 医薬品リスク管理計画研修シンポジウムが開催されました。これは、ASEAN の連結性の一環として医薬品規制調和を推進するために、インドネシア医薬品食品監督庁（BPOM）・インドネシア大学薬学部・日本の医薬品医療機器総合機構（PMDA）の共催で、日 ASEAN 統合基金（JAIF）を活用して事業を実施しているものです。

去年はオンラインでしたが、今回は初めて対面を含むハイブリッド形式で開催され、会場には約 300 名、オンラインで約 250 名が参加しました。翌 25 日～26 日には、全 ASEAN 加盟国の規制当局担当者約 40 名がワークショップに引き続き参加しました。

日本の知見を活用して、ASEAN 内での安全な医薬品の迅速な承認・使用を後押しするもので、日 ASEAN 双方に大きなメリットをもたらす取組と感じました。

このように有益な協力案件を日 ASEAN 特別首脳会議に向けて更に形成すべく、今月に入り、4 人の ASEAN 事務次長や各局課と集中的に協議を進めています。



第2回東アジア首脳会議大使級会合・リトリート（2023年5月23日）

●東アジア首脳会議大使級会合・リトリート

以上、日ASEAN協力について紹介してきましたが、今月22日～23日にバンドンでの[東アジア首脳会議（EAS）大使級会合（EAMJ）・リトリート](#)に参加して、ASEANのインド太平洋地域における重要な役割を改めて強く感じました。

ASEANは、加盟国の連携・協力の深化を通じてコミュニティの実現を目指しているのみならず、対話国（Dialogue Partners）をはじめ幅広い国・地域とのパートナーシップを推進しています。その中で、「ASEAN主導の枠組み（ASEAN-led mechanism）」として、ASEAN+1、ASEAN+3（日中韓／APT）、東アジア首脳会議（EAS）、拡大ASEAN国防相会議（ADMM-Plus）、ASEAN地域フォーラム（ARF）といった重層的な枠組みを構築し、制度化してきました。

今回参加したEAMJ・リトリートは、EASに参加するASEAN10か国と日中韓豪NZ印米露の8カ国の大使と担当官が、ジャカルタを離れてバンドン郊外のホテルで一堂に会するものです。初日の晩の夕食会に始まり、翌日公式会合、昼食会、リトリートを通じて同じメンバーで顔を合わせ、9月のEAS首脳会議に向けて、地域情勢をはじめ様々な課題について、率直に意見交換を行いました。

厳しい対立から緊密な連携まで複雑な関係が錯綜するインド太平洋地域の主要国の代表が、恒常的な枠組みの下で、平和と安定の実現に向けた対話と協力を共に進めることができるのは、ASEAN が中核となって場を設け、機運を醸成しているからだと感じました。



「アジアの未来」岸田総理スピーチ（2023 年 5 月 25 日、内閣広報室提供）

●ASEAN 主導の枠組みをどう生かすか

5 月 25 日、東京で開催された日経フォーラム「アジアの未来」の晩さん会で、岸田総理は[政策スピーチ](#)を行いました。その中で、先の G7 広島サミットの成果を総括するとともに、本年 3 月の「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）のための新たなプラン」の重要な要素として、「インド太平洋流のアプローチ」を改めて以下のとおり紹介しています。

「インド太平洋流のアプローチとは、多様な価値観、文化、歴史を受け入れ、相手を尊重し、相手に寄り添い、対話を通じて協力を推進し、様々な課題に、現実的・実践的に対処していく、というものです。

日本は従来から、こうした考え方を大切にしてきました。心と心の触れ合う関係を築き、対等なパートナーとして協力してきた、日本の ASEAN 外交。正に、インド太平洋流のアプローチの実践そのものです。

日 ASEAN 関係は、今年、50 周年を迎えます。相互の信頼と尊重によって強固に結びついた、今日の日 ASEAN 関係を考えると、このアプローチの有効性と意義は、証明されています。（・・・）

こうしたインド太平洋流のアプローチにより、日本ならではの形で、アジアの平和と安定、そして繁栄に、貢献してまいります。」

本年の ASEAN 議長国インドネシアは、「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）」の主流化を通じて、この地域に競争（rivalry）でなく協調（collaboration）を広めようとしています。このようなアプローチは、まさに FOIP のインド太平洋流のアプローチと共鳴（resonate）するものです。また、法の支配等を掲げる AOIP と FOIP は本質的な原則を共有しています。

インドネシアは、AOIP 主流化のモニタリングとフォローアップに際して、既存の ASEAN 主導の枠組みを活用する考えです。日本については、日 ASEAN のみならず ASEAN+3 や EAS も含まれるでしょう。

日 ASEAN 友好協力 50 周年を機に、日本と ASEAN の関係を新たなステージに引き上げる際には、単なる日 ASEAN 協力の枠を超え、ASEAN 主導の枠組みを活用して、一步一步着実に、協力の輪を広くインド太平洋に広げていくことが大事ではないかと感じています。すなわち、日 ASEAN が連携してインド太平洋協力の核となり、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の実現を推進していく。そのような考えのもと、当地で幅広い関係者と相談しながら、協力案件を形成していきたいと思えます。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦